

あなたの胃は元気ですか？

ピロリ菌検査を受けてみませんか！

ピロリ菌ってなに？

ヘリコバクター・ピロリ菌はヒトの胃粘膜だけに生息する菌で、ピロリ菌に感染すると胃の粘膜を傷つけて慢性胃炎になります。さらに、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃がんが発生するといわれています。

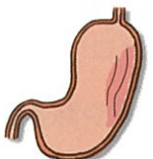
ほとんどが幼小児期に感染し、成人してからの感染は稀と考えられています。50歳以上の方では、6割以上がピロリ菌に感染していると想定されています。

ピロリ菌と胃がん発生リスクの関係

ピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。

胃がんが増えるのは50歳以降です。

胃粘膜の萎縮はペプシノゲン検査で判定します。

ピロリ菌 : 陰性 ペプシノゲン : 陰性	ピロリ菌 : 陽性 ペプシノゲン : 陰性	ピロリ菌 : 陽性 ペプシノゲン : 陽性	ピロリ菌 : 陰性 ペプシノゲン : 陽性
ピロリ菌の感染がなく (除菌治療を受けられた 方も含む)、胃粘膜の萎縮 もみられない状態	ピロリ菌に感染し慢性胃 炎をおこしているが、胃 粘膜は萎縮していない状 態	慢性胃炎が進んで萎縮性 胃炎をおこしている状態	萎縮性胃炎がさらに進み ピロリ菌が胃に住めなく なっている状態
			
低い	胃がん発生の危険度		高い

※ ピロリ菌がいる方の中で、胃がんが発見されるのは年間0.4%といわれています。
しかし、ピロリ菌に感染しているからといって必ず胃がんになるわけではありません。

Q ピロリ菌の検査法は？

呼気検査や血液検査など以下のものがあります。

検査方法	検体の種類
尿素呼気試験法	呼気
抗体測定法	尿、血液
抗原測定法	便
内視鏡検査 (培養、ウレアーゼ)	胃の組織

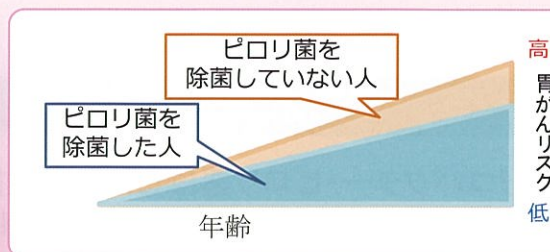


※ 一つの検査では正しい結果が出ないことがあり、いくつかの検査を組み合わせる場合があります。

Q ピロリ菌を除菌すると胃がんにかからなくなりますか？

除菌による胃がんの予防効果は30～40%といわれており、胃がんになるリスクは低くなります。また、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の再発防止、胃炎の改善などの効果があります。

ただし、除菌をしても胃がんのリスクはゼロにはなりません。治療後に胃がんが発見されることもあるので定期的に検査が必要です。



Q 医療保険で治療できますか？

医療保険で治療する場合は必ず胃内視鏡検査(胃カメラ)が必要になります。

また、ペニシリンアレルギーがある場合や3回目以上の治療など、医療保険が使えない場合もあります。

Q どのように治療しますか？

通常は3種類の薬(抗生剤2種類と胃薬1種類)を1日2回、7日間服用します。

服用終了後1ヶ月以上開けて、除菌治療がうまくいったかどうかを判定します。

約7～8割の方は除菌に成功します。

除菌治療にはメリット・デメリットがあります。除菌治療が1回でできない場合もあります。

また、ピロリ菌の除菌治療は必ず受けなければならないというものでもありません。

ピロリ菌や除菌治療について知りたい方は、消化器科の専門医に相談してください。

●●● 胃がんリスク検査のご案内 ●●●

JAのドック健診では、オプションでピロリ菌感染の有無とピロリ菌による胃粘膜の萎縮度を調べる胃がんリスク検査(胃の健康度検査)を採血で行っております。

ご希望の場合は、次回ドック健診を受ける際にお申し込みください。

最後に

ピロリ菌が陰性でも、ピロリ菌を除菌治療しても、胃がんが発見されることがあります。

**大事なことは、毎年続けて
胃がん検診を受けることです。**

